

講義概要

テーマ ベースオイル動向と原油情勢について

講師 J X日鉱日石エネルギー株式会社 潤滑油販売部 潤滑油第5グループ

担当マネージャー 前山 孝二 氏

纏め 日本工作油株式会社 日高 典子

1. はじめに

2008年度の未曾有の世界不況により一時的に需要が低迷したものの、依然としてアジア圏内の経済成長は目覚ましく、自動車産業を中心とした各種製造業は活発である。

このため、自動車用潤滑油・工業用潤滑油・船舶用潤滑油に使用される潤滑油の基となるベースオイルはアジア地域を中心に逼迫した状態が続いている。

2. ベースオイルの分類と品質

鉱油系ベースオイルのうちナフテン系は特定用途に使用されるため需要堅調で生産もほぼ一定である。他方パラフィン系は主に中東系の原油から生産され汎用用途に使用されておりグループⅠ～Ⅲに分類される。グループⅠは溶剤精製法による芳香族分を含むグレードで生産総量も多く世界的にポピュラーである。グループⅡ、Ⅲは水素化処理による高度精製により硫黄分が少なく飽和分が多いグレードで高粘度品の生産が困難。

3. 潤滑油製品の技術動向

自動車関連では、省燃費・長寿命・環境規制対応・高性能化の観点から先進国を中心に上位規格品であるグループⅡ及びⅢの需要が増加している。新興国においては上位規格品の普及は遅れておりグループⅠの需要が依然増加している。

工業用関連においても、省エネ・長寿命のニーズが高い油圧作動油、空気圧縮機油及び電力用タービン油にはグループⅡ、Ⅲが採用されているが、主流は添加剤溶解性の高いグループⅠである。

4. アジア圏のベースオイル需要動向

現在グループⅠは主流であるが、今後欧米を中心に閉鎖が進みアジア圏内も閉鎖の可能性がありタイト化が進むと思われる。

グループⅢは生産地域が少なく韓国が世界の供給拠点となっているが、ハイグレード基油需要の増大により引き続きタイト化が進むと思われる。

グループⅢのさらにハイグレード品とされるG T Lは中東にて大型新設が計画されているが、新規ベースオイルの認証までしばらく稼働は低いと思われる。

5. 最近のベースオイル価格動向

2008年以降、タイト化により価格は全体的に上昇傾向にあったが、今後グループⅡ、Ⅲは生産増によりわずかに価格低下することが予測される。グループⅠは生産拠点の閉鎖が進むもののアジアでの需要拡大により引き続き価格上昇する予想である。中東にて新規生産が計画されているG T Lは規格最上位品として、グループⅢより高価格な位置付けとなる。

6. 原油情勢について

今年度上半期WT I原油価格はバレル当たり最高値 86.8 ドル最安値 68.0 ドル、最近は 75～85 ドル前後で推移している。

この価格水準は過去 2 年間の中間であり、変動幅は相対的に小さくなっている。

後半も大きな波乱を想定しなければ、これまで同様に推移する可能性が高い。

しかし原油市場には世界経済・金融情勢等不透明な要因があり、これらの動向次第で原油価格も大きく変動することは必至である。

最近の原油価格の騰落は、石油需要ファンダメンタルズに加え金融要因、リスク要因等が原油市場での取引決定要因となっており、世界経済・国際金融情勢が動因となっている。